

# 風土記の丘の花だより<sup>84</sup>

## 今、そしてこれから見られる植物(2021年5月1日)

早いものでもう皐月、5月になりました。新緑が先の雨で洗われ、さらに鮮やかさを増したように輝いています。1年で一番さわやかな季節です。



豆のさやが3つあります。左から一番大きなカラスノエンドウ、中くらいのカスマグサ、一番小さいのがスズメノエンドウです。カラスノエンドウは子どもが「ピーピー豆」などと呼んで笛にして遊びます。カラスに対して小さいのが右のスズメイエンドウで、豆粒は2つしか入っていません。カラスとスズメの間にあるのは、カとスの間(ま)のカスマグサで、豆粒は4つほどです。草むらにはどれもたくさんありますので、手にとって見比べてください。



アカネがのびてきました。茎に対して十字に4枚の葉がつけます。茎に刺があり、他の草木などに寄りかかりながら成長します。根が赤色の染料になるので、赤根、それが夕暮れ時の西の空の色なので、草かんむりに西で「茜」の漢字を充てるようになりました。



アヤメがきれいです。昔から「いずれアヤメかカキツバタ」と言われます。どちらもよく似ていて、この季節になるとよく質問されます。乾いた土地に生えて、花の真ん中に網目模様があるのがアヤメ、水辺に生えて網目模様がないのがカキツバタです。カキツバタはもうすぐ咲きそうです。池では同じ仲間の外来植物キショウブも咲き出しました。(キショウブといってもキショウブの仲間ではありません。)



シュロの木に大きな花がたくさん咲いています。シュロはその姿からも分かるようにヤシの仲間です。特に紀北地方では昔から繊維をとるためにさかんに栽培されてきました。風土記の丘の目に付きやすいところのシュロはおそらく植栽されたものと思いますが、種子が大型の鳥などによって運ばれたのでしょうか、山の中にも普通に生えています。 松下